

(4) ①様式第4号-2 (報告書)

※文字の大きさは Meiryo UI /12ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

NITS カフェ報告書	実施機関名・連携機関名 宮崎大学大学院教育学研究科 (教職大学院)
※ 機構記入欄 No. : -	セミナー名:【NITS カフェ in 宮崎】 上手な時間管理の進め方 ～職場での「働き方」を改善しよう～

テーマ: 今回のニツツカフェでは、学校現場の視点から「教員の働き方改革」の動向と取組の事例を管理職及び教員から発表してもらい、その後で院生と発表者等とが「教員の働き方改革」を通じた学校経営改革構想をテーマとしたグループディスカッションを行い、自分の考えを自由に発表し合える場を提供し、よりよい働き改革の実践について具体的な意見交換が出来るようにした。

内容: 今回のニツツカフェでは、①宮崎県内の「教員の働き方改革」の動向を指導主事から説明してもらったあと、②先進モデル校における実践事例を管理職及び教員から発表してもらい、③その情報を基に院生と発表者等とが「働き方先進校“学校 X”を創設しよう！」をテーマとしたグループディスカッションを設定し、自分の考えを自由に発表し合える場を提供し、よりよい働き改革の実践について具体的な意見交換が出来るようにした。グループディスカッションでは、A B C D の 4 つのチーム編成として、1 グループの構成 (ファシリテーター・まとめ役指導主事 1 名、教諭またはまとめ役管理職 1 名、教職大学院生 7 名 計 9 名) とした。参加者数は 40 名。内訳は、県教委・研修センター指導主事等 (6 名)、モデル校管理職及び教諭 (4 名)、教職大学院教員 (3 名)、教職大学院生 (27 名) であり、当日の聴講者は、教職大学院等教員 (15 名)、教育学部生 (6 名) であった。参加した教職大学院生は、共通必修科目「学校経営の実践と課題」を履修済みの院生であり、授業で学んだ学校経営の基本的枠組みと基礎知識をもって、現在進行形の改革について現場の管理職や教員と話し合うことで、理論知と実践知とを整合させる格好の機会となるようにした。

成果: アンケート調査の質問項目は、ア「県教委の説明を聞いて「教員の働き方改革」の理解が」。イ「2 校の実践発表を聞いて「教員の働き方改革」の理解が」。ウ「ワークショップに参加して「働き方改革」の理解が」。エ「ワークショップの発表を聞いて「働き方改革」の理解が」。オ「本日のまとめを聞いて「働き方改革」の理解が」の 5 つである。評価尺度は「5 大変深まった。4 深まった。3 どちらともいえない。2 あまり深まらなかった。1 殆ど深まらなかった。」の 5 段階評価である。結果は、次の通りである。

	5	4	3	2	1
ア	20	17	0	0	0
イ	24	12	1	0	0
ウ	15	18	2	0	0
エ	12	22	1	0	0
オ	17	16	2	0	0

結果として、とくに 2 校の先進実践校の説明を聞いて理解を増した参加者が多かった。属性別にみると、特にストレート院生 13 名中 10 名が 2 校の先進実践校の説明で「大変深まった」と回答していた。

また自由記述は、次の通りである。・働き方について、根本的な改革も必要であるが、現場では、一

人一人が当事者意識をもち、できることから進めていきたいと感じた。・こういった場で、教育について語る人が増えていくことが、教職の今後を魅力あるものにさせていくのだろうなと感じました。・各校の具体的な取組についてお聞きでき、イメージをもつことができました。・現場でもこのように管理職も含めて話せる機会があると、より働き方改革が進み、悩みを共有・解決して、子どもも教員も元気な学校になるのではと思いました。・働き方改革について、学校自体もそれぞれ工夫していることがよく分かって、自分たちの意識も大切だと感じました。・若い人の考えも素晴らしいものがあった。

ニツカフェ全体の感想については、「本日の内容」について回答者 37 名中 26 名が「とてもよかった」、11 名が「よかった」と回答した。自由記述は以下の通りである。・小学校の先進事例は、とても参考になった。「やってみないと分からない」という校長先生の強いリーダーシップが大切であると思った。・西池小学校と妻中学校の実践がとても参考になった。ワークショップにおいて、様々な意見が聞けて、これからいろんな発想を浮かべていこうと意識改革になった。・働き方改革について、教育委員会（行政）と校長先生（現場）のどちらの立場からも先進的なお話を聞くことができ、貴重な機会に感謝します。お話を聞くだけでなく、グループワークにもご参加頂くことで、発表では見えなかった日々の取組や信念もお伺いすることができました。・今後の学校について話し合える場があり、とても勉強になりました。こういった話ができる場や人が増えると、学校はもっと魅力あるものになっていくと感じました。

以上から目標である、よりよい働き方改革の実践について具体的な意見交換を達成できた。今後も引き続き県教委と現場と教職大学院との交流の機会を確保し、教職をより魅力あるものにしていきたい。

アイデアや工夫したこと： 今回のニツカフェでは、次の 4 つの工夫をほどこした。

- 1 教員の働き方改革を進める宮崎県内の先進モデル校の管理職及び教員に取組を説明してもらった。
- 2 教育委員会とモデル校の管理職及び教諭と教職大学院生が対等に協議できる機会を設けた。
- 3 ワークの課題として架空の「学校 X」を構想して、「教員の働き方改革」と学校改善とを関連付けた。
- 4 ワークショップでは、特大ポストイットを用いて、協議内容の可視化と概念整理がしやすくなった。

<写真・図など>



教育委員会事務局による教員の働き方改革の説明を行った。次に、先進モデル校の管理職及び教員による先進事例の説明を行い、説明の後に質疑応答を行い、院生から質問がなされた。



ワークショップでは特大ポストイットに貼り付けたアイデアを類型化して、問題点を整理した。構想する「学校 X」の命名自体に「スマート中学校」など改革方針を体現したものが挙げられた。



ワークショップでは、先進事例の校長先生も参加して、院生からの意見に対する見解を述べたりすることで、院生にとっては、現場の管理職と本音を交えた会話ができる。